

2026.1.15 Thu
— 2.8 Sun

PROGRAM

No. 70

NFAJプログラム
2025年12月発行

アンソロジー・フィルムアーカイブス
— アメリカ実験映画の地平へ —

国立映画アーカイブ 長瀬記念ホール OZU

Anthology Film Archives:
Surveying American Experimental Cinema



主催：国立映画アーカイブ、アンソロジー・フィルムアーカイブス
会期中の休館日：月曜日 定員＝310名（各回入替制・全席指定席） 各回の開映後の入場はできません

アンソロジー・フィルムアーカイブス
——アメリカ実験映画の地平へAnthology Film Archives:
Surveying American Experimental Cinema

アンソロジー・フィルムアーカイブス(以下アンソロジー)は、映像作家たちが中心となって設立したインディペンデントな組織として、“周縁の豊かさこそ文化を活気づける”という強い信念のもと、映画史において見落とされがちな個人映画や実験的な映像作品を軸に保存・研究・上映を行う、世界的に見ても非常にユニークなフィルムアーカイブです。

第二次世界大戦後の米国では、16mmカメラの普及やスーパー8、シングル8などの登場により、個人や小規模のインディペンデントによる映画制作が加速し、欧州の前衛映画の影響を受けながら、独自の実験的試みが繰り返されました。特に1960年代のニューヨークでは、映像作家、詩人、音楽家、美術家など分野を越えた交流が活発化し、フリージャズ、ポップアートなどの様々な文化的潮流と共鳴しながら、アンダーグラウンド映画のムーブメントが形成されました。既成概念に縛られないラディカルな作品が次々と誕生したのです。

このような映画の重要性を誰よりも提唱し続けたのが、詩人で映像作家のジョナス・メカス(1922–2019)です。1949年、難民としてリトアニアから米国に渡ったメカスは、戦争で粉々になった希望を拾い集めるかのように、こうした作品を擁護する活動を仲間とともに展開しました。1955年に映画雑誌「フィルム・カルチャー」を創刊、1961年には作家団体による個人映画の配給組織として「フィルムメーカーズ・コーペラティブ」を始動。さらに、作品の保存・研究・上映を恒常的に行うことを目的としたフィルムアーカイブの設立に奔走します。そして1970年、メカス、ジェローム・ヒル、P・アダムス・シトニー、ペーター・クーペルカ、スタン・ブラッケージによってアンソロジーは創設されました。

本企画では、ビート・ジェネレーションとアンダーグラウンドを繋ぐ重要人物でありながら29歳で夭折したロン・ライスによる作品や、再評価が期待されるマージョリー・ケラーによる詩情溢れる作品など、復元によって蘇った作品だけでなく、アンソロジーで展開されている映画の形式や概念を批評的に問い直す先鋭的なプログラムを中心に、アメリカ実験映画、個人映画、インディペンデント映画115本(23プログラム)を上映します。

映像表現の可能性を模索する作品群の上映を通して、映像メディアに囲まれた現代に新たな視点をもたらす機会となれば幸いです。みなさまのご来場をお待ち申し上げます。

- 🎬=監督・演出 🎭=原作・原案 📖=脚本・脚色
📷=撮影 🎨=美術 🎵=音楽 🗣️=出演
🗣️=ナレーション・解説
- 特に表記のない場合、製作国は米国です。
■上映分数は当日のものと多少異なることがあります。
■不完全なプリントや状態の悪いプリントが含まれていることがあります。
■★の回はトークイベントや講演があります。
■特記のないものは、他機関から提供された上映素材です。上映素材がアンソロジー所蔵の場合は、作品情報の横に **A** と付記しています。

観客のみなさまへ

1970年に設立されたアンソロジー・フィルムアーカイブスは、当時の文化が抱えていた大きな空白を埋める役割を果たしてきました。実験映画の保存と研究に特化したアーカイブやシネマテークはそれまで一つも存在していなかったのです。過去55年にわたり、当館は滅失や忘却の脅威にさらされ続けている映画の意義を広め、その遺産を守るというミッションを堅持しています。この理念に基づき、私たちは近年の保存活動と上映プログラムから選りすぐりの実験映画を、日本の観客のみなさまにご紹介できることを大変嬉しく思います。

ジョン・クラクスマン
アンソロジー・フィルムアーカイブス アーキビスト

1 1/27(火)19:00 1/31(土)16:30

ロン・ライス作品集(1) (計65分)

その独創性によって1960年代アンダーグラウンド映画における最重要人物の一人と目されながら、29歳の若さで夭折したロン・ライス(1935–1964)。代表作の『花泥棒』は、アメリカの風景と即興演技を活かした撮影によって、ビート・ジェネレーションの感性が最も純粋な形で表現されている。主演のテイラー・ミードは、詩人として活動するかたわら、アンディ・ウーホル作品など数多くのアンダーグラウンド映画に出演。それらの作品に色濃く影響を受けた『コーヒー & シガレッツ』(2003、ジム・ジャームッシュ)では、象徴的にキャストされている。

花泥棒(59分・16mm・白黒) **A**

The Flower Thief

1960🎬📷製作 編集 ロン・ライス🗣️テイラー・ミード

テイラー・ミードの演技クラス

(3分・DCP・無声・白黒) **A**

Taylor Mead's Acting Class

1960

チャールズ・シアターでのロン・ライス **A**

(3分・DCP・無声・白黒)

Ron Rice at the Charles Theater

1962

2 1/16(金)15:00 1/31(土)13:00★

ロン・ライス作品集(2) (計66分)

『無感覚』では、メキシコ旅行の記録が既存の映画文法に縛られず詩的に紡がれる一方、『チュムラム』は、多重焼付と鮮やかな色彩が織りなすイメージの氾濫によって、幻想的で反規範的なムードへと観客を誘う。検閲や不当な低評価によって米国での活動に限界を感じていたライスは、メキシコに活動の場を移すものの、その矢先に客死する。完成版には登場しないはずのテイラー・ミードらしき人物が一瞬映る『チュムラム』のアウトテイクと、次作に向けてメキシコで撮影されていた未完成のフッターを併せて上映する。

チュムラム(23分・35mm・カラー) **A**

Chumlam

1964🎬📷ロン・ライス🗣️アンガス・マクリーズ🗣️ビバリー・グラント、ジャック・スミス、マリオ・モンテス

無感覚(28分・DCP・白黒) **A**

Senseless

1962🎬📷ロン・ライス

チュムラム アウトテイク

(3分・DCP・無声・カラー) **A**

Chumlam Outtakes

1964🎬ロン・ライス

メキシコにおける未完のフッター

(12分・DCP・無声・白黒／カラー) **A**

The Mexican Footage

1964🎬ロン・ライス

★印の回は上映後に、アンソロジー・フィルムアーカイブスのジョン・クラクスマン氏による講演(約40分、逐次通訳付き)があります。

3 2/4(水)15:00 2/7(土)19:00

ふたたび男が(49分・16mm・カラー)

Twice a Man

ギリシャ神話におけるパイダラーの義息ヒッポリュトスへの呪われた愛について、舞台をニューヨークに置き換え、再解釈したマーコボウロス(1928–1992)の代表作。コマ撮りやイメージの断片による複雑な構成と斬新な物語構造で綴られる。P・アダムス・シトニーは、マーコボウロスを「アメリカ・アヴァンギャルド映画の究極的にエロティックな詩人」と称した。

1963🎬📷グレゴリー・J・マーコボウロス🗣️ポール・キルプ、オリンピア・デュカキス、アルバート・トルゲセン

4 1/17(土)17:00 1/23(金)19:00

構造映画作品集(計91分)

映画批評家のP・アダムス・シトニーが提唱した「構造映画」は、フィルムの特性や撮影、映写の仕組みなど映画を成立させる要素そのものをコンセプトualに捉えた作品群。カナダの現代芸術を牽引したマイケル・スノウ(1928–2023)のニューヨーク時代の代表作『波長』は、ある部屋に据えられた固定カメラを徐々にズームアップすることで視覚の芸術としての映画の構造を映し出した作品。ジョージ・ランドウ(1944–2011)の『スプロケットの穴〜』は、女性のまばたきのテストフィルムをスプロケットの穴や汚れの粒子ごと映し出し、「映画を観る」という体験への省察を促す。2022年にアンソロジーによって復元されたボール・シャリッツ(1943–1993)の『S:TREAM:S:S:ECTION:S:SECTION:S:S:SECTIONED』は、水の流れを捉えた映像とフィルムに刻まれた傷の動きを重ね合わせ、動的な表現としての映画を再考する。

波長(45分・16mm・カラー)

Wavelength

1967🎬📷マイケル・スノウ

スプロケットの穴やエッジレターや汚い粒子などのある映画(4分・16mm・カラー) **A**

Film in Which There Appear Edge Lettering, Sprocket Holes, Dirt Particles, Etc.

1966🎬ジョージ・ランドウ

S:TREAM:S:S:ECTION:S:SECTION:S:S:SECTIONED

(42分・16mm・カラー) **A**

1971🎬ボール・シャリッツ

5 1/15(木)15:00 1/18(日)16:00

詩篇23枝篇(64分・16mm・無声・カラー)

23rd Psalm Branch

スタン・ブラッケージ(1933–2003)による8mmサイレント“Song”シリーズの23番目の作品で、ベトナム戦争へのアクチュアルな反応として制作された。戦争、死、暴力、動員などの光景を映し出した歴史的フッターに詩篇や日常のフッターを織り込み、特徴である神話詩的な構成を用いながら、同時代への明確なメッセージを打ち出している。

1966–67🎬📷スタン・ブラッケージ

6 1/27(火)15:00 2/1(日)13:00

デイヴィッド・ブルックス作品集(計53分)

メカスが設立した「フィルムメーカーズ・コーペラティブ」の事務局長に18歳で採用されたデイヴィッド・ブルックス(1944–1969)は、24歳の若さで亡くなるまでニューヨークアンダーグラウンド映画の中心人物として才気あふれる作品を発表し続けた。代表作の『夜の泉・昼の星』と『冬 64–66』では、放縦なカメラによって捉えられた日常の断片とサウンドトラックがフリージャズのようにコラーージュされ、抒情的かつ幻想的な作品世界が展開する。初期作の『ジェリー』や遺作の『イール・クリーク』を含む短篇4本も併せて上映。

ジェリー(3分・16mm・無声・白黒) **A**

Jerry

1963🎬デイヴィッド・ブルックス🗣️ジェリー・ジョフェン

ローランド・カーク

(4分・16mm・無声・白黒) **A**

Roland Kirk

1964🎬デイヴィッド・ブルックス

夜の泉・昼の星(18分・16mm・カラー) **A**

Nightspring Daystar

1964🎬デイヴィッド・ブルックス



冬 64-66(17分・16mm・カラー) **A**
Winter '64-'66
1964-66 ㊟デイヴィッド・ブルックス
パリのD・Hへの手紙(4分・16mm・カラー) **A**
Letter to D.H. in Paris
1967 ㊟デイヴィッド・ブルックス
イーell・クリーク(7分・16mm・カラー) **A**
Eel Creek
1968 ㊟デイヴィッド・ブルックス

7 1/18(日)12:00★ 1/22(木)19:00
トム、トム、笛吹きの子
(122分・DCP・無声・白黒)
Tom, Tom, the Piper's Son
群衆による祝祭のカオスを描き出した最初期の喜劇映画『トム、トム、笛吹きの子』(1905)を再撮影の素材として、ズームやパン、高速・低速再生といった様々な視覚的効果によって作品本来の意味を解体し、映像の多義的な細部や物質性へと視線をいざなう「構造映画」の代表作。映画表現の可能性に挑み続けたケン・ジェイコブス(1933-2025)による、ビリー・ピッツァー撮影のオリジナル版に対するクリティカルな解釈は、初期映画の再評価をめぐる国際的な議論を呼び起こした。
1969 ㊟ケン・ジェイコブス
★印の回は上映後に、西嶋憲生氏(映像研究者)による講演(約40分)があります。

8 1/31(土)19:00 2/8(日)13:00
クイック・ビリー (56分・16mm・カラー) **A**
Quick Billy
1970 ㊟ブルース・ベイリー
クイック・ビリー：6つのロール
(16分・16mm・無声・カラー) **A**
Quick Billy: Six Rolls (Numbers 14, 41, 43, 46, 47, and 52)
1968-69 ㊟ブルース・ベイリー
アピチャッポン・ウィーラセタクンも影響を公言するブルース・ベイリー (1931-2020) は、その詩的な映像によって西海岸の実験映画を代表する存在であった。本作は1967年以降の肝炎による闘病生活を背景に、生と死を巡る思索が神話創造的かつ自伝的に深められている。全体は映画史を遡上するような4つの「ロール」で構成されており、映画の本来的な性質が意識の記録であることを示唆している。2025年にアンソロジーによって復元された。『クイック・ビリー』制作中に、ベイリーとスタン・ブラッケージの間で交わされたやり取りの一環として始まった、本篇に付随する「ロール」も併せて上映。

9 1/15(木)19:00 1/23(金)15:00 1/25(日)16:00
グリーサーズ・パレス (91分・DCP・カラー) **A**
Greaser's Palace
ニューヨークを拠点に反体制的なインディペンデント映画を発表し、ジョナサン・デミやポール・トーマス・アンダーソンに多大な影響を与えたロバート・ダウニー・シニア(1936-2021)によるアヴァンギャルドな西部劇。強権的な男シーウィードヘッド・グリーサーズ(ヘンダーソン)が支配する西部開拓時代の小さな町にパラシュートで舞い降りた奇妙な男(アーバス)が、不思議な力で人々に癒しを授けていく。2025年にアンソロジーによって復元された。
1972 ㊟ロバート・ダウニー ㊟ピーター・パウエル ㊟デイヴィッド・フォアマン ㊟ジャック・ニッチェ ㊟アルバート・ヘンダーソン、マイケル・サリヴァン、ルアナ・アンダース、アラン・アーバス、バブロ・フェロ、エルシー・ダウニー、ロバート・ダウニー・ジュニア



グリーサーズ・パレス

10 1/24(土)13:00★ 1/29(木)19:00
抽象アニメーション作品集(計59分)
ビジュアル・ミュージックの先駆的な映像作家オスカー・フィッシャングー(1900-1967)やメアリ・エレン・ビュート(1906-1983)の作品から、ロバート・ブリア(1926-2011)の『呼吸』(1963)やジェームズ・ホイットニー(1921-1982)の『ラピス』(1966)など、1960年代アメリカの実験アニメーションを中心に、個人の自伝的内容で初のアカデミー短編アニメーション賞を獲得した『フランク・フィルム』(1973)までを俯瞰する。ビート・ジェネレーションの影響下、瞑想的で、新技術への関心、脱物語、知的活動や芸術活動の延長線にある抽象アニメーション群。フィルムへのダイレクトペイント、切り紙やコラージュ、アナログコンピュータなどの技法で制作された。
フィルム・エクササイズ1
(3分・16mm・カラー)
Film Exercises 1
1943 ㊟ジョン・ホイットニー、ジェームズ・ホイットニー
魅惑(8分・16mm・白黒)
Allures
1961 ㊟ジョーダン・ベルソン
ラピス(10分・16mm・カラー)
Lapis
1966 ㊟ジェームズ・ホイットニー
神を逆さに綴ると犬(3分・16mm・カラー)
God Is Dog Spelled Backwards
1967 ㊟ダン・マクローリン
オブチカル・ポエム(7分・DCP・カラー)
An Optical Poem
1938 ㊟オスカー・フィッシャングー
ポルカ・グラフ(5分・DCP・カラー)
Polka Graph
1947 ㊟メアリ・エレン・ビュート
呼吸(5分・DCP・カラー)
Breathing
1963 ㊟ロバート・ブリア
デュオ・コンチェルタンテ
(9分・DCP・白黒)
Duo Concertantes
1962-64 ㊟ラリー・ジョーダン
フランク・フィルム(9分・DCP・カラー)
Frank Film
1973 ㊟フランク・モリス
★印の回は上映後に、本プログラムをキュレーションした山村浩二氏(東京藝術大学教授、アニメーション作家)による講演(約50分)があります。

11 1/21(木)19:00 2/7(土)12:00★
リグルーピング(80分・DCP・白黒) **A**
Regrouping
ニューヨークのフェミニスト・コレクティブを考察したリジー・ボーデン(1958-)の初長篇映画。制作後に数回上映された後、出演者たちの不満を受け約40年間封印されたままであった本作は、2016年に彼女たちの許可を得ることが叶い、2022年にアンソロジーにより4K復元された。後の『ボーン・イン・フレイムズ』(1983)や『ワーキング・ガールズ』(1986)で展開されるような女性の集団性における力学がドキュメンタリーの手法で描かれる。
1976 ㊟リジー・ボーデン ㊟ジョーン・ジョナス、パーバクルーガー、アリエル・ボック、キャスリン・ビグロー
★印の回は上映後に、リジー・ボーデン氏(監督)のオンライントーク(約40分、逐次通訳付き)があります。



リグルーピング

12 1/25(日)13:00 2/5(木)15:00
クッチャー兄弟作品集(計70分)
双子の兄弟であるマイク(1942-) & ジョージ・クッチャー (1942-2011) は、1960年代から70年代にかけてニューヨークを拠点にキャンパの意匠や同性愛の表象を盛り込んだ低予算映画を発表した。『裸のまま抱きしめて』は性的に満たされない映画監督の苦悩を描いたジョージ・クッチャーの代表作で、「ヴィレツジ・ヴォイス」の20世紀映画ベスト100にも選出された。『フレッシュアポイドの罪』はマイク・クッチャーによる初の単独監督作で、ジョン・ウォーターズにも影響を与えたコミック的なSF映画。『私、女優』は、ジョージ・クッチャーがサンフランシスコ美術学院の講師時代に数多く制作した短篇の一作で、俳優志望の女子学生のスクリーンテストを捉えた作品。
裸のまま抱きしめて(15分・DCP・カラー)
Hold Me While I'm Naked
1966 ㊟ジョージ・クッチャー ㊟ドナ・ケルネス、ホープ・モリス、ステイヴ・バックカード、アンドレア・ルニン
フレッシュアポイドの罪(45分・DCP・カラー)
Sins of the Fleshapoids
1965 ㊟ ㊟マイク・クッチャー ㊟ボブ・コーワン、ジョージ・クッチャー、ドナ・ケルネス、マレン・トーマス、ジーナ・ザッカーマン
私、女優(10分・DCP・白黒)
I, An Actress
1977 ㊟ジョージ・クッチャー ㊟マーク・バブティスタ ㊟バーバラ・ラブスリー

13 1/24(土)16:00 2/3(火)15:00
ハリー・スミス作品集(計54分)
絵画、映像などの創作活動のみならず、米国のルーツ・ミュージックの研究や文化人類学を横断し、サイケデリック時代に先駆けた異才ハリー・スミス(1923-1991)。切り抜き素材を自在にコラージュした錬金術的なアニメーション作品『ナンバー 11: ミラー・アニメーション』、ニューヨークの精肉店やカイオワ族の映像を重ね合わせたスーパーインポーズ映画の先駆的作品『ナンバー 14: レイト・スーパーインボジション』、北米の先住民族セミノールのパッチワークを接写した『ナンバー 15』、2025年にアンソロジーにより復元された『ナンバー 19』を上映する。
ナンバー 11: ミラー・アニメーション
(4分・16mm・カラー) **A**
Film No. 11 (Mirror Animations)
1957 ㊟ハリー・スミス
ナンバー 15(10分・16mm・無声・カラー) **A**
Film No. 15
1965-66 ㊟ハリー・スミス
ナンバー 14: レイト・スーパーインボジション
(28分・35mm・カラー) **A**
Film No. 14 (Late Superimpositions)
1964 ㊟ハリー・スミス
ナンバー 19(12分・DCP・カラー) **A**
Film No. 19
1978 ㊟ハリー・スミス

14 1/28(木)15:00 2/8(日)16:00
マリー・メンケン/ マージョリー・ケラー作品集(計117分)
ジョナス・メカスの作風にも多大な影響を与えた、ニューヨークアンダーグラウンドの重要人物マリー・メンケン(1910-1970)。映画批評家J・ホバーマンが「アヴァンギャルドの中で最も非利己的なチャンピオン」と称したマージョリー・ケラー (1950-1994)。これまで上映の機会が限られていたが、アンソロジー・フィルムアーカイブスの復元によって蘇った短篇群を上映する。
急いで!急いで!(3分・16mm・カラー) **A**
Hurry! Hurry!
1957 ㊟マリー・メンケン
ドワイティアーナ(4分・16mm・カラー) **A**
Dwightiana
1957 ㊟マリー・メンケン ㊟伊藤貞司
庭の印象(5分・16mm・カラー) **A**
Glimpse of The Garden
1957 ㊟マリー・メンケン

アラベスク(4分・16mm・カラー) **A**
Arabesque for Kenneth Anger
1961🎞マリー・メンケン

ムーンプレイ(5分・16mm・白黒) **A**
Moonplay
1964🎞マリー・メンケン

ドリップス・イン・ストリップス
(3分・16mm・無声・カラー) **A**
Drips in Strips
1962-64🎞マリー・メンケン

ライツ(7分・16mm・無声・カラー) **A**
Lights
1964-65🎞マリー・メンケン

アンディ・ウォーホル
(22分・16mm・無声・カラー) **A**
Andy Warhol
1965🎞マリー・メンケン

シ/ヴァ(3分・16mm・無声・カラー) **A**
She / Va
1973🎞マージョリー・ケラー

6つの窓(7分・16mm・無声・カラー) **A**
Six Windows
1979🎞マージョリー・ケラー

アウター・サークル(7分・16mm・カラー) **A**
The Outer Circle
1973🎞マージョリー・ケラー

カオスの娘たち(20分・16mm・カラー) **A**
Daughters of Chaos
1980🎞マージョリー・ケラー

フィルム・ノートブック:1969-76 パート2
— 私たちの一部は機械時代にいる
(27分・DCP・無声・カラー) **A**
Film Notebook: 1969-76; Part 2, Some of Us in the Mechanical Age
1977🎞マージョリー・ケラー

15 1/21(火)15:00 2/6(金)19:00

ボーン・イン・フレイムズ
(85分・DCP・カラー) **A**
Born in Flames
社会民主主義によって起こされた解放革命から10年後の近未来ニューヨークを舞台にしたSF作品。現在ではフェミニスト映画の古典とも称される本作は、ジェンダー、人種、階級を越えた女性たちが連帯し、革命後もなお残る抑圧に対峙する姿をドキュメンタリー的手法で描く。
1983🎞製作🎞編集リジー・ボーデン🎞🎞エンド・ボーズ🎞アル・サンタナ🎞ブラッズ、レッド・クレイオラ🎞ハニー、アデル・ベルティ、ジーン・サターフィールド、フローレンス・ケネディ、キャスリン・ピグロー

16 1/20(火)15:00 1/28(火)19:00★

アンソロジー・フィルムアーカイブスの創設者たち(計72分)
本プログラムでは、アンソロジー・フィルムアーカイブスの創設において中心的な役割を担った人物の中から、ジョナス・メカス(1922-2019)、ペーター・クーベルカ(1934-)、スタン・ブラッケージ(1933-2003)、ジェームス・ブロートン(1913-1999)の作品、そしてP・アダムス・シトニー (1944-2025)が登場するマージョリー・ケラーの『落下の世界』(1983)を上映。
カシス(6分・16mm・カラー) **A**
Cassis
1966🎞ジョナス・メカス
サーカス・ノート(13分・16mm・カラー) **A**
Notes on the Circus
1966🎞ジョナス・メカス
窓・水・赤ん坊・動き(12分・16mm・カラー)
Window Water Baby Moving
1959🎞スタン・ブラッケージ
ワンダー・リング(4分・16mm・無声・カラー)
The Wonder Ring
1955🎞スタン・ブラッケージ

猫のゆりかご(6分・16mm・無声・カラー)
Cat's Cradle
1959🎞スタン・ブラッケージ

蛾の光(4分・16mm・無声・カラー)
Mothlight
1963🎞スタン・ブラッケージ

ルーニー・トム、幸福な恋人たち
(10分・16mm・白黒)
Loony Tom, The Happy Lover
1951🎞ジェームス・ブロートン

落下の世界(10分・16mm・カラー) **A**
The Fallen World
1983🎞マージョリー・ケラー

アルヌルフ・ライナー(7分・35mm・白黒) **NEW**
Arnulf Rainer
1960(壊)🎞ペーター・クーベルカ
★印の回は上映後に、当館研究員による解説(約20分)があります。

17 1/17(土)12:00★ 1/20(火)18:30

時を数えて、砂漠に立つ
(150分・16mm・カラー)
He Stands in a Desert Counting the Seconds of His Life
メカスは初長篇『ウォールデン』(1968)で「日記映画」という独自の手法を確立した。本作はその続篇ともいべき作品で、アンソロジー設立時期の1969年から1984年にニューヨークで交流した友人たちとの124の映像スケッチで紡がれている。またソーホー地区を生み出した当時の芸術運動「フルクサス」の当事者たちの記録としても貴重で、この部分に関しては本作の完成後にメカスが自ら構成した書籍『メカスの友人日記』(1989年、晶文社)を参照することで、より理解が深まろう。
1985🎞ジョナス・メカス🎞ジョージ・マチューナス、ジョン・レノン、オノ・ヨーコ、アンディ・ウォーホル、ケネス・アンガー、ケン・ジェイコプス、ハンス・リヒター、アンリ・ラングロフ、アレン・ギンズバーグ、クッチャー兄弟
★印の回は上映後に、一之瀬ちひろ氏(写真家・研究者)による講演(約40分)があります。

18 1/16(金)19:00

ストム・ソゴー作品集(計79分)
「映画は、できるだけ汚らしくて、狂ってなければいけない。みんなが映画館から逃げ出して、人生にもっとまじなものを望むようになるために…。僕の映画は、精神に作用する視覚的キャンディーで、最初は甘く感じるけど、次に発作を起こさせる」(ストム・ソゴー)
大阪で生まれ育ったストム・ソゴー (1975-2012)は、1993年頃からニューヨークへ拠点を移し、その後アンソロジー・フィルムアーカイブスで映写技師として働きながら制作を続けた。再撮影の手法を多用し、暴力的なまでに明滅する光とホームビデオの映像を組み合わせる独特な作風は、同時代のアーティストに大きな刺激を与えた。本プログラムでは、アンソロジーが復元を手掛けた作品群を上映。

ペリオディカル・エフェクト
(10分・DCP・カラー) **A**
Periodical Effect
2001🎞ストム・ソゴー

シルバー・プレイ(16分・DCP・カラー) **A**
Silver Play
2002🎞ストム・ソゴー

ゆるやかな死(16分・DCP・白黒/カラー) **A**
Slow Death
2000🎞ストム・ソゴー

追伸 死んでしまった瞬間
(18分・DCP・カラー) **A**
PS When You Thought You are Going to Die
2003🎞ストム・ソゴー

TRI(9分・DCP・カラー) **A**
2004🎞ストム・ソゴー

リピート(10分・DCP・カラー) **A**
Repeat
2006🎞ストム・ソゴー
本プログラムには、激しい光の明滅を伴う作品があります。ご注意ください。

アンソロジー・フィルムアーカイブス キュレーションプログラム

1970年の設立以来、アンソロジーは「エッセンシャル・シネマ」に始まり、映画プログラムを活動の中心に据え、その内容を時代とともに進化させてきました。このセクションでは、長年アンソロジーの上映プログラムを担当してきたジェド・ラブフォーゲル氏のキュレーションにより、ニューヨークで特に話題を呼んだプログラムを厳選して紹介します。

19 2/3(火)19:00 2/5(木)19:00

「イメージレス・フィルムズ」シリーズ
より(約55分)
アヴァンギャルドや実験映画の領域では、常に映画の定義において本質的かつ不可欠とされる要素をいかに削ぎ落とせるか、また削ぎ落としても映画として成立しうるのかという挑戦が繰り返されてきた。対話やサウンド・コラージュを強調する映画、視覚的要素が主に文字で構成される映画、光と暗闇を操作するプロジェクター・パフォーマンス、フリッカー映画など、本プログラムでは、「イメージのない」映画の可能性、あるいはより広義に「空虚」や視覚的な引き算のアイデアをめぐる、映像作家がどのように実験してきたかを探求する。
プロジェクション・インストラクションズ
(4分・16mm・白黒)
Projection Instructions
1976🎞モーガン・フィッシャー

スペシャル・エフェクツ(11分・16mm・白黒)
Special Effects (Hapax Legomena VII)
1972🎞ホリス・フランプトン

カラー・シークエンス(3分・16mm・カラー)
Color Sequence
1943🎞ドウィネル・グラント

白(2分・16mm・無声・白黒)
Weiß
1968(壊)🎞エルンスト・シュミット・ジュニア

ワード・ムービー (フルクサス・フィルム No.29)
(4分・16mm・カラー) **A**
Word Movie (Fluxfilm No. 29)
1966🎞ポール・シャリツ

Evil.27: セルマ(9分・DCP・カラー)
Evil.27: Selma
2011🎞トニー・コークス

テレビジョン・デリバーズ・ピープル
(7分・DCP・カラー)
Television Delivers People
1973🎞リチャード・セラ、カルロッタ・スクールマン

ウィークエンド(12分・DCP・白黒)
Weekend
1928(独)🎞ヴァルター・ルットマン

モナ・リザと微笑み(約3分)
Mona Lisa & Her Smile
1964🎞オノ・ヨーコ
『モナ・リザと微笑み』の作品詳細は上映当日に説明します。



裸のまま抱きしめて

20 1/24(土)19:00★ 1/30(金)15:00

「モーション(レス)・ピクチャーズ」シリーズより (計82分)

「イメージ」同様、「運動」という概念も「モーション・ピクチャー」「ムービー」という呼び名にも示されているように、映画の基盤的要素のひとつであり、その起源である写真から根本的に区別される性質となる。本プログラムでは、従来の概念を問い直し、映画と写真というメディアの豊かで複雑な関係を探求する作品を紹介する。

エンジェル・ビーチ (18分・16mm・無声・カラー)
Angel Beach
2001◎スコット・スターク

パサディナ・フリーウェイ・スティルズ (6分・16mm・無声・カラー)
Pasadena Freeway Stills
1974◎ゲーリー・ペイドラー

SPACY (9分・16mm・カラー)
1981(日本)◎伊藤高志

資本主義：奴隷制 (3分・DCP・無声・白黒)
Capitalism: Slavery
2006◎ケン・ジェイコブス

アンダースキャン (10分・DCP・白黒)
Underscan
1974◎ナンシー・ホルト

ノスタルジア (36分・DCP・白黒) A
Hapax Legomena I: (nostalgia)
1971◎ホリス・フランプトン◎マイケル・スノウ
★印の回は上映後に、伊藤高志氏(映像作家)と山下宏洋氏(イメージフォーラム・フェスティバルディレクター)によるトーク(約30分)があります。

21 1/22(木)15:00 1/30(金)19:00 2/7(土)16:30

「ドキュメンタリー・フィードバック」シリーズより

「ドキュメンタリー映画制作における倫理的側面(そしてある程度は映画全体における倫理)は、終わりのない議論や批評的な討論を生み出してきたテーマです。監督と被写体の権力関係、搾取や誤解を招く危険性(あるいはその不可避性)、客観性という幻想を助長する危うさ……しかし映画作家自身がこうした問題を作品の構造に織り込もうと試みてきたことは見過ごされがちです」(アンソロジー／ラブフォーゲル氏)

ドキュメンタリー映画制作に内在する倫理的な問いや権力関係を前景化し、それに対処する特異な方法を示す作品として、ウィリアム・グリーヴスの『シンバイオサイコタクシプラズム：テイク・ワン』を上映。大学在学中より黒人劇団で俳優として活動していたグリーヴスは、ハリウッドの製作体制に反発してカナダへ渡った後、帰国して実験的なドキュメンタリー映画作家となった。この作品は長らく劇場未公開だったが、1992年のサンダンス映画祭で上映されたのを機にスティーヴン・ソダーバーグらの尽力により配給された。哲学者アーサー・F・ベントリーが環境と人間の関係について提唱した概念「シンバイオサイコタクシプラズム」に基づき、セントラルパークで即興的に撮影される映画の制作風景を、分割画面を駆使しながら多層的に描き出している。

シンバイオサイコタクシプラズム：テイク・ワン (75分・DCP・カラー)

Symbiopsychotaxiplasm: Take One
1968◎製作 編集 ◎ウィリアム・グリーヴス 製作 マニエル・メラメッド ◎テリー・フィルゲート、ステヴァン・ラーナー ◎パトリシア・リー・ギルバート、ドン・フェローズ、ジョナサン・ゴードン、ボブ・ローゼン



ナンバー 11：ミラー・アニメーション

22 1/29(木)15:00 2/4(水)19:00

「オーディオビジュアル・フィードバック」シリーズより (計68分)

「ここで紹介するアーティストたちは、一方向の情報や表現の流れを超えて、円環的、反射的、あるいは多方向的なイメージ、音、アイデアの構成を実験するとともに、異なるテクノロジーがいかに異なる変奏、分析、哲学的または美的な自己認識の機会を生み出すかを示しています」(アンソロジー／ラブフォーゲル氏)
「ドキュメンタリー・フィードバック」シリーズの関連プログラムとして、ビデオ・フィードバック、音響フィードバック、鏡など、さまざまな技法を用いて視覚的または聴覚的なフィードバック・ループを作り出す映画やビデオ作品を上映する。

ミラー (9分・DCP・無声・白黒)
Mirror
1969◎ロバート・モリス

ダブル・ミラー・ビデオ (6分・DCP・白黒)
Double Mirror Video
1971(加)◎ジェネラル・アイディア

レフトサイド・ライトサイド (9分・DCP・白黒)
Left Side Right Side
1972◎ジョーン・ジョナス

デュエット (5分・DCP・白黒)
Duet
1972◎ジョーン・ジョナス

ミラーリング (6分・DCP・無声・白黒)
Mirroring
1975◎ダラ・バーンバウム

鏡張りの理由 (10分・DCP・カラー)
Mirrored Reason
1979◎スタン・ヴァンダービーク

パフォーマー／観客／鏡 (23分・DCP・白黒)
Performer/Audience/Mirror
1975◎ダン・グラハム

23 2/1(日)16:00★ 2/6(金)15:00

「アヴァンギャルド広告」シリーズより (計65分)

アンソロジーが保存・上映してきた映画の領域は、長らく「実験映画」「アヴァンギャルド」「インディペンデント」などと呼称され、その妥当性をめぐる議論が続いてきた。中でも、ハリウッドに代表される商業主義に対抗する意味を含んだ「非商業的」という呼称は、おおよそ包括的であると見做されてきた。しかし、2025年11月からアンソロジーで開催された「アヴァンギャルド広告」シリーズのプログラムでは、純粋性と急進性を体現する映像作家でさえ、スポンサーが付いた広告的意味を持つ作品を制作してきた事例に光を当て、その基盤となる区別に再定義を促す。ここで紹介する作品群は、ある種の実験なのか、敵陣へのアヴァンギャルドの侵入なのか、誰でも生活のために仕事をしなければならないという現実なのか、あるいはそのすべてなのか。多様な答えに開かれた問いが、本プログラムを通して提起される。
＊ [] 内にはスポンサー／商品に記載しています。

勝者 (2分・DCP・無声・カラー) [タイヤ]
Der Sieger
1921(独)◎ヴァルター・ルトマン

奇跡 (3分・DCP・無声・カラー) [リキュール]
Das Wunder
1922(独)◎ヴァルター・ルトマン

侯爵夫人の秘密 (3分・DCP・無声・白黒) [スキングリーム]
Das Geheimnis der Marquisin
1922(独)◎ロッテ・ライニガー

舟歌 (4分・DCP・無声・白黒) [チョコレート]
Die Barcarole
1924(独)◎ロッテ・ライニガー、ユリウス・ピンシェワー

キーフォ・フィルム (6分・DCP・無声・白黒) [映画・写真の展示会]
Film (Kipha)
1925(独)◎ユリウス・ピンシェワー、グイド・ゼーバー

上昇 (2分・DCP・無声・白黒) [デュッセルドルフでの健康と芸術の博覧会]
Der Aufstieg

1926◎ロッテ・ライニガー、ユリウス・ピンシェワー

2ペンスの魔法 (2分・DCP・無声・白黒) [週刊誌]
Zweigroschenzauber
1929(独)◎ハンス・リヒター

カレイドスコープ (4分・DCP・カラー) [タバコ]
Kaleidoscope
1935(英)◎レン・ライ

ロボットの誕生 (7分・DCP・カラー) [潤滑油]
The Birth of a Robot
1935(英)◎レン・ライ

トレード・タトゥー (5分・DCP・カラー) [イギリス郵政省]
Trade Tattoo
1937(英)◎レン・ライ

カラー・フライト (4分・DCP・カラー) [航空会社]
Colour Flight
1938(英)◎レン・ライ

泡の戯れ (2分・DCP・カラー) [石鹸]
Hra bublinek
1937(チェコスロヴァキア)◎カレル・ドガル、イレナ・ドダロヴァー

宇宙の響き (2分・DCP・白黒) [電機メーカー]
Znějící vesmír
1935(チェコスロヴァキア)◎カレル・ドガル、イレナ・ドダロヴァー

秋の歌 (2分・DCP・白黒) [デパート]
Píseň podzimu
1937(チェコスロヴァキア)◎カレル・ドガル、イレナ・ドダロヴァー

ハイウェイが歌う (4分・DCP・白黒) [タイヤ]
Silnice zpívá
1937(チェコスロヴァキア)◎アレクサンダー・ハミッド、エルマル・クロス

燃え上がる愛 (2分・DCP・カラー) [電球]
Izzó Szerelem
1939(ハンガリー)◎マチカーシ・ジュラ

光 (1分・DCP・カラー) [電球]
Fény
1942(ハンガリー)◎マチカーシ・ジュラ

クロニクル (2分・DCP・カラー) [新聞]
Chronicle
1955◎ジョーダン・ベルソン

輪 (2分・16mm・カラー) [広告代理店]
Kreise
1933-34(独)◎オスカー・フィッシングアー

ムラッティ (2分・16mm・白黒) [タバコ]
Muratti Privat
1935(独)◎オスカー・フィッシングアー

マンツTVコマーシャル (2分・16mm・白黒) [TV]
Muntz TV
1953◎オスカー・フィッシングアー

アデバー (1分・16mm・白黒) [カフェ] (CMとしては未公開)
Adebar
1957(奥)◎ペーター・クーベルカ

シュベカター (1分・16mm・カラー) [ビール] (CMとしては未公開)
Schwechater
1958(奥)◎ペーター・クーベルカ

★印の回は上映後に、アンソロジー・フィルムアーカイブスのジェド・ラブフォーゲル氏による講演(約50分、逐次通訳付き)があります。



6つの窓

アンソロジー・フィルムアーカイブス ― アメリカ実験映画の地平へ

Anthology Film Archives: Surveying American Experimental Cinema

1月	15		15:00 ⑤ 詩篇23枝篇 (64分)	19:00 ⑨ グリーサース・パレス (91分)
	16		15:00 ② ロン・ライス作品集(2) (計66分)	19:00 ⑩ ストム・ソゴー作品集 (計79分)
	17	12:00 ⑦ 時を数えて、砂漠に立つ★ (150分)	17:00 ④ 構造映画作品集 (計91分)	
	18	12:00 ⑦ トム、トム、笛吹きの子★ (122分)	16:00 ⑤ 詩篇23枝篇 (64分)	
	20		15:00 ⑩ アンソロジー・フィルムアーカイブスの創設者たち(計72分)	18:30 ⑦ 時を数えて、砂漠に立つ (150分)
	21		15:00 ⑮ ボーン・イン・フレイムズ (85分)	19:00 ⑪ リグルーピング (80分)
	22		15:00 ⑫ ドキュメンタリー・フィードバック (75分)	19:00 ⑦ トム、トム、笛吹きの子 (122分)
	23		15:00 ⑨ グリーサース・パレス (91分)	19:00 ④ 構造映画作品集 (計91分)
	24	13:00 ⑩ 抽象アニメーション作品集★ (計59分)	16:00 ⑬ ハリー・スミス作品集 (計54分)	19:00 ⑫ モーション(レス)・ピクチャーズ★(計82分)
	25	13:00 ⑫ クッチャー兄弟作品集 (計70分)	16:00 ⑨ グリーサース・パレス (91分)	
2月	27		15:00 ⑥ デヴィッド・ブルックス作品集 (計53分)	19:00 ① ロン・ライス作品集(1) (計65分)
	28		15:00 ⑭ マリー・メンケン/マージョリー・ケラー作品集(計117分)	19:00 ⑩ アンソロジー・フィルムアーカイブスの創設者たち★(計72分)
	29		15:00 ⑫ オーディオビジュアル・フィードバック(計68分)	19:00 ⑩ 抽象アニメーション作品集 (計59分)
	30		15:00 ⑫ モーション(レス)・ピクチャーズ (計82分)	19:00 ⑫ ドキュメンタリー・フィードバック (75分)
	31	13:00 ② ロン・ライス作品集(2)★ (計66分)	16:30 ① ロン・ライス作品集(1) (計65分)	19:00 ⑧ クイック・ビリーほか (計72分)
	1	13:00 ⑥ デヴィッド・ブルックス作品集 (計53分)	16:00 ⑬ アヴァンギャルド広告★ (計65分)	
	3		15:00 ⑬ ハリー・スミス作品集 (計54分)	19:00 ⑬ イメージレス・フィルムズ (約55分)
	4		15:00 ③ ふたたび男が (49分)	19:00 ⑫ オーディオビジュアル・フィードバック(計68分)
	5		15:00 ⑫ クッチャー兄弟作品集 (計70分)	19:00 ⑬ イメージレス・フィルムズ (約55分)
	6		15:00 ⑬ アヴァンギャルド広告 (計65分)	19:00 ⑮ ボーン・イン・フレイムズ (85分)
	7	12:00 ⑪ リグルーピング★ (80分)	16:30 ⑫ ドキュメンタリー・フィードバック (75分)	19:00 ③ ふたたび男が (49分)
	8	13:00 ⑧ クイック・ビリーほか (計72分)	16:00 ⑭ マリー・メンケン/マージョリー・ケラー作品集(計117分)	

■各回の開映後の入場はできません。
■各日11:00に閉館します。
■★印の回は講演やトークがあります。

展示室(7階)

【企画展】

常設展「NFAJコレクションでみる 日本映画の歴史」も併設されています。

写真展 ハリウッドの名監督たち 映画芸術科学アカデミーのコレクションより Hollywood Masters in Photos: From the Academy Collection

2025年12月16日(火)―2026年3月22日(日)

*月曜日、12月27日[土]―1月7日[水]は休室

主催:国立映画アーカイブ

特別協力:映画芸術科学アカデミー

アカデミー賞で知られる映画芸術科学アカデミーは、映画アーカイブや映画資料の図書館も擁する組織です。本展はその膨大なコレクションより黄金期ハリウッドの名監督やスターの撮影現場を収めたスナップ写真を公開し、当館の資料も合わせてアメリカ映画の香気あふれる時代を再現します。

開室時間=11:00―18:30(入室は18:00まで)
料金=一般250円(200円)/大学生130円(60円)/65歳以上、高校生以下および18歳未満、障害者手帳をお持ちの方(付添者は原則1名まで)、国立美術館のキャンパスメンバーズは無料

*料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。

* ()内は20名以上の団体料金です。

*学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。

*国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券(オンラインチケット「購入確認メール」またはQRコードのプリントアウト)をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。

*詳細は本展のチラシまたは国立映画アーカイブのHPをご覧ください。

▶ チケット購入方法

	一般	65歳以上	高校・大学生	小・中学生・障害者手帳をお持ちの方(付添者1名まで)・キャンパスメンバーズ
チケット料金	1,300円	1,100円	700円	500円
オンライン販売	各上映日の3日前正午から各上映回の開映15分前まで			
窓口販売	各上映回の開映1時間前から5分前まで若干数販売、お支払いは現金のみ			

*電子チケットは、当館HPより公式チケットサイトにてオンライン販売します。

*料金区分の違うチケットでは入場できません。差額のお支払で観覧することはできません。

*学生、65歳以上、障害者手帳をお持ちの方、国立美術館のキャンパスメンバーズは証明できるものをご提示ください。ご提示のない方は入場できません。

*未就学児、優待の方は「障害者手帳をお持ちの方または付添者等券」をお求めください。

▶ 入場方法

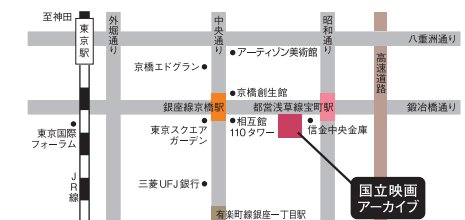
*開場は開映30分前です。

*チケットのQRコードをスマホ画面、または印刷紙面でご提示ください。特集名、作品名はチケットに表示されませんので、お間違いのないようご注意ください。

*各回の開映後の入場はできません。予告篇はございません。



チュムラム



国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分

都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分

東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分

JR東京駅八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル 050-5541-8600

ホームページ: www.nfaj.go.jp



長瀬映像文化財団

国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

上映会番号 491